

千苺貯水池流域の水源環境保全の取り組み

羽束川・波豆川流域水質保全協議会

1. はじめに

羽束川・波豆川流域水質保全協議会（以下「協議会」という。）は、神戸市で最も大きな水道専用の貯水池である「千苺貯水池」に流れ込む武庫川水系の「羽束川（はつかがわ）・波豆川（はずかわ）」の水質保全に関する活動を実施することで、良質な水道水源の確保と河

川及びその周辺地域の環境の保全に寄与することを目的とした団体です。

構成員は神戸市および両河川流域自治体である三田市・宝塚市と、流域の住民団体（高平地区・西谷地区水質保全推進協議会）であり、平成21年度より活動しています。



羽束川



波豆川



千苺貯水池

2. 協議会設立の背景 ～神戸の貴重な水道水源「千苺貯水池」～

協議会設立の背景には神戸の水道水源が深く関わっています。

神戸市は水源となる大きな川や湖に恵まれていないため、水源確保量の約4分の3は、琵琶湖・淀川水系を水源とする「阪神水道企業団」から水を購入することでまかなっています。自己水源として市内には3つの貯水池がありますが、最も大きい千苺貯水池でも神戸市の水源確保量に占める割合は約12.8%（令和2年4月時点）にとどまっています。

その最大の自己水源である千苺貯水池は市街地から遠く離れた神戸市北区の北東部に位置しています（図1参照）。なぜ市街地から遠く離れた場所に最大の貯水池を建設することとなったのか、創設の歴史を紹介します。

神戸の水道給水が始まった1900年（明治33年）、7,600戸であった水道利用家庭は1905年（明治38年）には2万6,200戸に増加しました。加えて、1人あたりの水使用量は増加し、市街地に近い場所にある2つの貯水池（布引・烏原）のみでは水が不足し、1910年（明治43年）7月20日には初めて給水制限が実施されるなど、急場をしのぐ方策がとられました。しかし、給水制

限は衛生面からも市民生活に大きな影響を及ぼすことは間違いなく、早急な水道拡大が求められました。

そこで、水道拡張が急務となり、1911年（明治44年）に新しい水源を求める調査を行いました。

結果、武庫川水系の羽束川および波豆川が淀川に比べ維持費が少ないこと、また、水量・質ともに良好であることが判明し、水源として設計を開始しました。

そして、10年もの歳月をかけた大工事の末、1921年（大正10年）に完成した千苺貯水池の水は、水の自然流下の仕組みを利用し、約15キロ南の上ヶ原浄水場（西宮市）に送り浄水し、水をそこからさらに西に19キロ離れた奥平野浄水場（神戸市）まで送水管で送ります。この工事の結果、給水開始時は25,000m³であった給水量は104,000m³となり、水需要が増え続ける市街地を支えてきました。

現在、千苺貯水池は神戸市の北部地域を中心に水を送り続けていますが、水の自然流下の仕組みを利用して神戸の市街地に安定的に給水を行えるよう、上ヶ原浄水場を再整備しています。水の自然流下の仕組みを利用すれば送水する際にポンプが不要になるため、たとえば災害時に停電が発生した場合でも神戸の市街地に給水が可能になります。

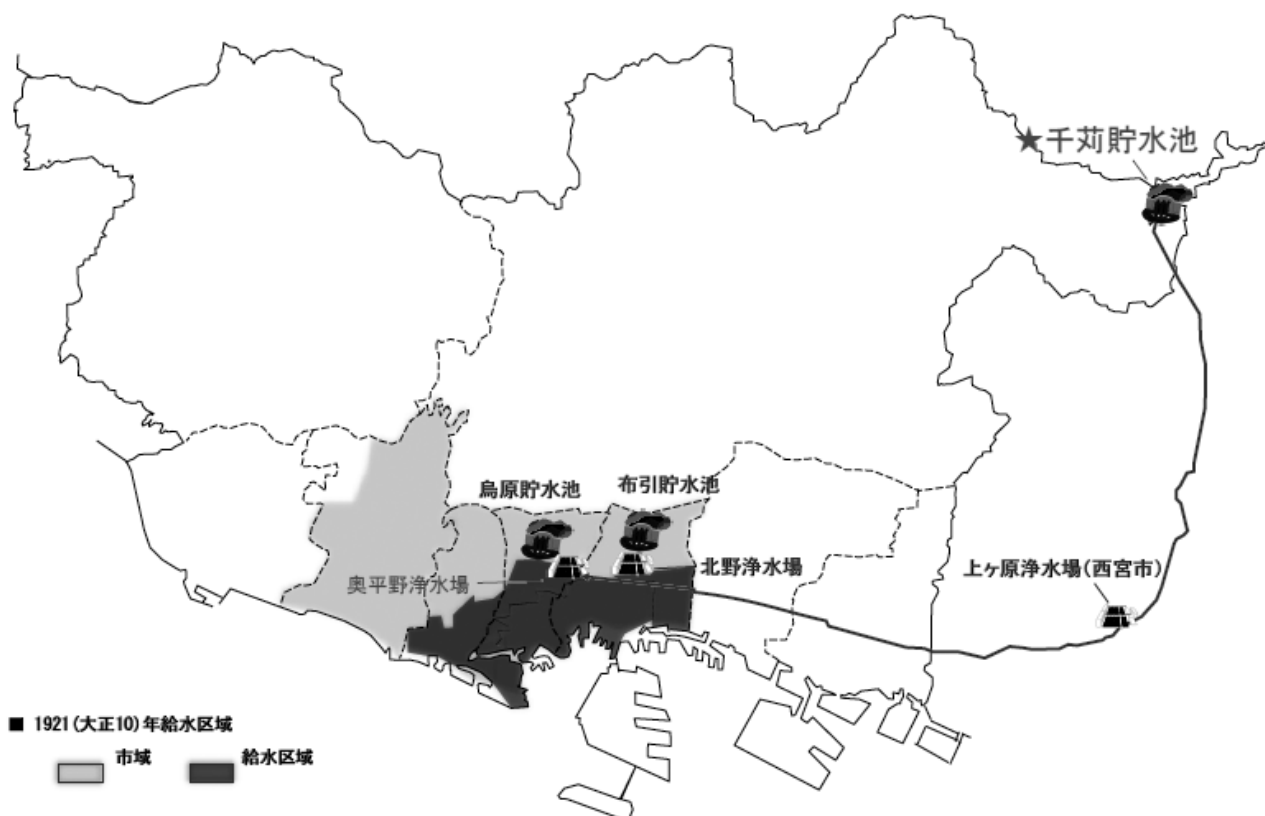


図1

このように神戸の貴重な自己水源である千苺貯水池に流れ込む、羽束川・波豆川の水質と水源環境の保全を図り、良質な水道水源の確保と河川及びその周辺地域の環境の保全に寄与するため協議会は設立されたのです。



《影撮日三十二月十年五正大》 道索空架ノ中事工堤堰苺千

千苺貯水池建設時（大正5年）



《影撮日九十月四年八正大》 面外堤堰苺千

千苺貯水池建設時（大正8年）

3. 協議会の活動について

1993年（平成5年）に3市（神戸市、三田市、宝塚市）で現在の協議会の前身である「財団法人羽束川・波豆川流域水質保全基金」を設立しました。この基金において、羽束川及び波豆川の水質の保全を図るために、水質保全に関する普及啓発事業、生活排水対策事業、環境美化推進事業を行っていました。この基金は2009年（平成21年）に解散しましたが、事業を引き継ぎ、さらに住民の方々が主体的により積極的に水質保全活動を推進するため、3市に加えて住民団体で構成される現在の「羽束川・波豆川流域水質保全協議会」を発足し、自治体だけではなく流域住民の方々と協力して日々の活動を継続してきました。

活動内容は主に、①普及啓発事業、②生活排水対策事業、③河川環境美化事業の3つの柱から成り立っています。

①普及啓発事業では、主にイベントを中心とした活動を行っております。

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からイベントは中止し、「羽束川のいきものたちをのぞいてみよう」というタイトルで子ども向けに羽束川に棲む生き物を写真も交えてわかりやすく紹介した特設ページをホームページ上に新たに作成し、水源地の環境保全の大切さをWEBからも発信しました。

新型コロナウイルス感染拡大以前、令和元年度はどのような取り組みを行ったかについても詳しくご紹介します。

神戸市民向けに「水源探訪バスツアー」を開催し、自身のまちの水源について理解を深められるよう貯水池の見学などを行うほか、水源環境保全の必要性や自然と水の関わり合いを実感できるようなプログラムを構成し、実施しました。

また、羽束川・波豆川に関わりの深い神戸・三田・宝塚の3市の市民に向けたイベント「水源で親子水生生物観察会」を開催し、環境啓発活動を行うNPO法人の先生の指導の下、水生生物の採集・観察や、水源涵養に関するクイズなどを行い、水源環境の保全の大切さを親子で学んでいただきました。

そのほか、神戸市民と羽束川・波豆川流域の住民が合同で千苺貯水池の清掃活動を行う「千苺クリーン交流」を開催し、水道水源保全活動の重要性を学び、理解を深める取り組みも行いました。

これらイベントは募集人数を上回る参加希望が寄せられるなど人気があり、3市の住民と自治体等が協働して水質保全の活動を行っています。

（参考）令和元年度イベント参加者数

- 水源探訪バスツアー：37人
- 水源で親子水生生物観察会：70人
- 千苺クリーン交流：63人

イベントの他にも、流域周辺の約2,000世帯および千苺貯水池の水を主に使用している神戸市北部住民に向けてコミュニティ紙「流域だより」を年2回発行し、多くの人に羽束川・波豆川について関心を持っていただくきっかけづくりも行っています。



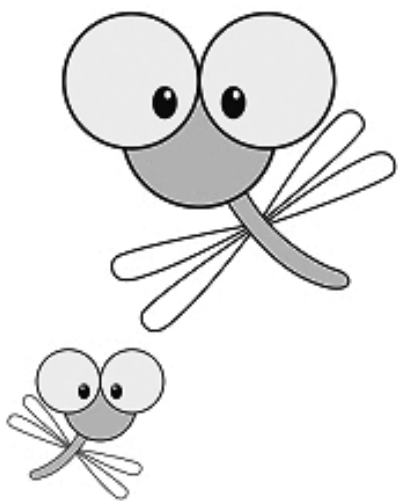
水源探訪バスツアー



水生生物観察会



千苺クリーン交流



トンぼうや

羽 東 川 & 波 豆 川

**流域
だより**
第24号

千苺水源池を見守り続けて

西谷地区水質保全推進協議会 会長 中井三

【千苺川・波豆川流域水質保全協議会】
三田市、宝塚市を流れる羽東川と波豆川は、
神戸市の水源である千苺貯水池に流れ込む川です。
本協議会は、羽東川の水質保全を目的として、
流域の住民と三田市・宝塚市・神戸市と協働・連携しながら、
様々な事業を行っています。

【千苺川・波豆川流域水質保全協議会】
三田市、宝塚市を流れる羽東川と波豆川は、
神戸市の水源である千苺貯水池に流れ込む川です。
本協議会は、羽東川の水質保全を目的として、
流域の住民と三田市・宝塚市・神戸市と協働・連携しながら、
様々な事業を行っています。

【千苺川・波豆川流域水質保全協議会】
三田市、宝塚市を流れる羽東川と波豆川は、
神戸市の水源である千苺貯水池に流れ込む川です。
本協議会は、羽東川の水質保全を目的として、
流域の住民と三田市・宝塚市・神戸市と協働・連携しながら、
様々な事業を行っています。

発行
神戸市水環境 21年度版
神戸市水環境推進センターより発行
〒650-0001 神戸市中央区南長狭3-1-1

流域だより（コミュニティ紙）

平成19年度にはPRキャラクター「トンぼうや」を公募により制定し、また平成28年度には取り組みを紹介するDVD「みんなで守ろう！水源の環境 ～羽東川・波豆川と千苺貯水池」を作成しホームページ等に掲載するほか、イベント開催時に放映を行うなど、協議会活動の周知に繋げる取り組みも行っています。

②生活排水対策事業では、合併処理浄化槽設置区域である波豆川流域の地域の世帯に対し、浄化槽の適正な維持管理を図る目的で保守点検費及び清掃費等の助成を行っています。合併処理浄化槽を使用すると、川へ放流する汚濁量を単独処理浄化槽の8分の1、汲み取り便所の6分の1にすることができるため、助成



河川清掃活動



不法投棄防止看板

を行うことで、生活環境の保全及び公衆衛生の向上に繋がっています。

③河川環境美化事業では、流域住民・地域団体が実施している河川の清掃活動や地域美化活動、環境美化パトロール活動への助成のほか、不法投棄防止看板の設置を行い、羽束川・波豆川の環境および景観の保全に繋がっています。

これらの事業を総合的に行うことで、羽束川・波豆川と千苺貯水池の水環境を守り育てています。

4. 今後について

流域地域団体が協議会の構成員となってから10年以上経過しました。流域住民の方々には、水質保全・環境保全の重要性についてご理解をいただきながら、河川の清掃活動や地域美化活動、環境美化パトロール活動などに主体的に取り組んでいただいております。また、合併処理浄化槽の維持管理にかかる助成については、水質改善に効果をもたらしております。

3市（神戸市・三田市・宝塚市）の住民が参加・交流するイベントでは、参加者自身が使用する水道水が上流域の地域団体・住民の方々の努力によって水質が保たれているということに気が付くきっかけとなっていますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和2年度以降はイベントを中止せざるを得ない状況が続いており、コロナ禍においてどのような活動ができるのか検討を行っているところです。

今後も水道水源の利用者である神戸市民に、水質保全・環境保全の重要性についてご理解いただけるよう普及啓発活動を実施するとともに、3市と流域住民の方々と力を合わせて水道水源の水質保全と河川及びその周辺地域の環境の保全に寄与するため、活動を継続していききたいと思います。

羽束川・波豆川流域水質保全協議会